



「まちづくり活動連続講座」報告

東京都生協連・(一財)地域生活研究所 共催

第10講 2019年11月21日(木)
14:00~17:00

これからの 地域コミュニティと 生協の役割

東京の「集いの館」構想を考える

コープみらい5名/パルシステム東京8名/
東都生協1名/東京ふれあい医療生協2名/
東京ほくと医療生協2名/三多摩医療生協
1名/東京消費者団体連絡センター2名/
生協総研2名/東京都生協連16名/地域生
活研究所1名 講師1名
合計40名



生協総研編『2050年新しい地域社会を創る』(2018年、東信堂)
「集いの館」イメージイラスト:宮崎直子さん

生協が持続可能で、且つ地域社会から頼りにされる存在になるための提言」として、『2050年新しい地域社会を創る』が生協総研より刊行されました。集いの館の構想に深く関わってこられた京都大学大学院教授の若林靖永さんをお招きして、地域の人々が広く連携し、課題解決に繋がるこれからの生協のありかたをともに考えあいました。

「2050年 新しい地域社会を創る「集いの館」構想と生協の役割

若林 靖永さん(京都大学経営管理大学院 院長 京都大学経営管理研究部教授・経済学研究科教授)



【変わりゆく暮らしと地域 2050年超高齢化社会のコミュニティ構想】

- ① 2050年までは一貫して超高齢化・人口減少は進行していく。
- ② 90歳を超える超高齢女性が人口構成の大きな部分を占める。
- ③ 高齢者の単身世帯が標準世帯となる。
- ④ 個人の生き方や人のつながり方が変わり、従来の家族は変容する。
- ⑤ 超高齢であっても健康で元気な高齢者の活躍の場が必要となる。
- ⑥ 要介護ないし介護予備軍が増え続ける。
- ⑦ 空き家が激増し、地域の安全が問題となる。
- ⑧ 現在の単位での自治体の継続が困難になり、消滅や統合される。
- ⑨ 高齢者の多様なニーズにより、活躍できる雇用の場が求められる。
- ⑩ 簡便で安全な調理スタイルが増え、台所や食卓が変化する。
- ⑪ 「支える側」が支えられ、「支えられる側」が支える。
- ⑫ 男女の格差が狭まり、ジェンダー格差が解消される。
- ⑬ 生活福祉のニーズの多様化により、ビジネスモデルの助け合い(商助)の仕組みが求められる。

【2050年の社会で解決すべきこと 生み出したいこと】

- 特定のターゲット、特定テーマ、特定の時だけのイベントではなく、それぞれの地域の魅力、強み、関係者、資源を活かして、いつでもなんでも受け止める地域の居場が育まれる。
- 高齢者が活躍でき、高齢者の生活を豊かにし、支える。

高齢者のHAPPYを考えたい！

【元気な高齢者がチームを組んで運営する、 ソーシャルビジネスモデルとなる『集いの館』構想】

- 全国15,000の小学校区すべてに、元気な高齢者が運営主体となる90坪の「集いの館」を展開する。
- その日の食べものと日用医薬品と提供するコンビニ形態の30坪の「お店」、ワンストップであらゆる暮らしに関わる相談に応じる「よろず相談デスク」、老若男女誰もが気軽に立ち寄り、触れ合い、支え、支えられ、のんびり過ごすことのできる「フリースペース」60坪で構成される。
- 血縁ではなく、地域の結縁で生まれる「地縁」、家族の「家」であり、プラットフォームである。

「集いの館」のようものをつくるなら…

ニーズは何か

誰とやるか

価値観は何か



- オープンでいつでも気軽に参加できる。
- おしゃべり、気軽に相談買い物までできる。
- 学びや娯楽、運動ができる。
- 多世代が交流できる。
- 施設は地域にあるもの。
- スタッフは地域の元気な高齢者が中心で、住民の自主運営。
- 生協等の専門経営組織のバックアップがある。
- 行政や関係諸団体とのネットワーク。
- それ自体が「協同組合」であってもよい。

【2050年の日本の地域生協のミッションの再定義】

協同組合原則の第7原則「コミュニティへの関与」の具体化として、協同組合が基礎とする価値「自助」「自己責任」「民主主義」「平等」「公正」「連携」を大切に、誰もがウェルビーイングな

『新しい地域社会を創る』

グループワーク

話し合いの切り口となるテーマを参考に、地域の困りごとを出し合い、将来的に「生協」が地域で役割を果たすためにどんなことができそうかを考えあう、グループワークを行いました。



都会の買い物難民問題、認知機能の衰えによる高額契約問題、子どもの貧困、障がいのある方の困りごとなど様々な困りごとがだされ「生協で長く活動した人が地域担当になる」「生協のお店でよろず相談ができる」などのアイデアが出されました。



導入部分の国連気候行動サミットで気候変動の危機を訴えたグレタ・トゥーンベリさんのスピーチや、集いの館構想を考えあってきた先生だからこそのお話から、なぜ今、30年先の事を考えなければいけないのかということや、生協の忘れてはいけない使命を改めて感じた講座となりました。『過去をふまえ、現状を分析し、未来構築の道を探る。それは人間しかできない営みである』という終わりの言葉が印象に残った講座でした。